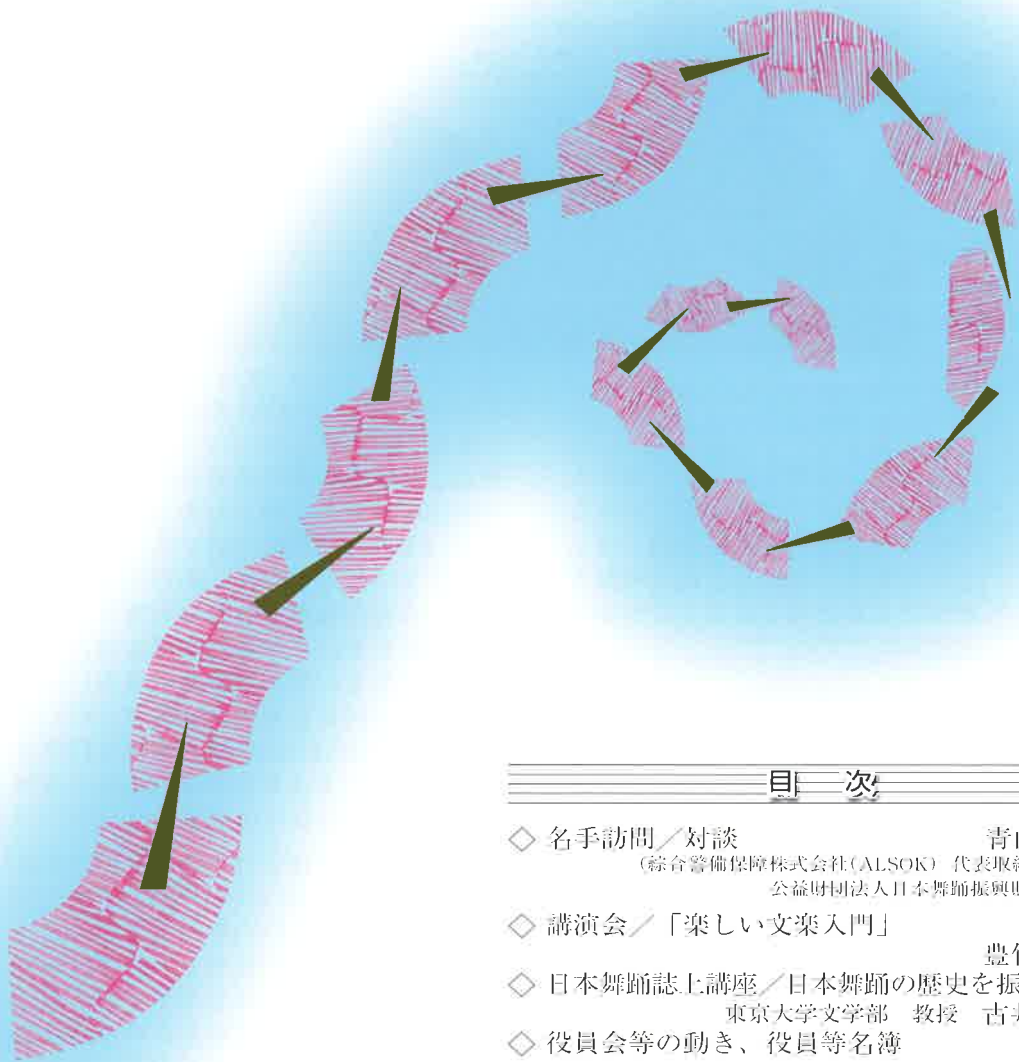


NBF

Information

2013・Summer

No.44



目次

- ◇ 名手訪問／対談 青山幸恭
(総合警備保障株式会社(ALSOK) 代表取締役社長
公益財団法人日本舞踊振興財団理事)
- ◇ 講演会／「楽しい文楽入門」 豊竹咲大夫
- ◇ 日本舞踊誌上講座／日本舞踊の歴史を振り返る② 20
東京大学文学部 教授 古井戸秀夫
- ◇ 役員会等の動き、役員等名簿
- ◇ 平成24年度 正味財産増減計算書
- ◇ 特別会員芳名
- ◇ NBF 活動報告・行事予定・編集後記

名手 訪問

対談 青山 幸 恭（総合警備保障株式会社（ALSOK）
代表取締役社長 公益財団法人 日本舞踊振
興財団 理事）

西川 扇 藏（公益財団法人 日本舞踊振興財団 理事長）
[敬称略]



2013年5月27日
(於：ALSOK 応接室)

青山 西川先生には理事会等でも何かとお世話になっております。お忙しい中お出向き頂き大変恐縮に存じております。しかし、日本舞踊と警備となると接点が見当たらないと思われませんが。

西川 そもそも名手訪問というのはそれぞれの分野でご活躍の一線の方々にお話しを伺うということですので、どうぞあまり日本舞踊のことは気になさなくて結構です。違う分野の話を書いていただければ大変みんなもお勉強になると思うんです。かつては国家公務員として官庁にお勤めなさり、現在ではALSOKという民間会社にお勤めなさっていらっしゃると思いますが、何か差というものがございますでしょうか？

青山 やはり官庁の世界は、お客様は国民の皆様であり、かつ政治家の先生方がそれを代表する、ということでしょうか。その中で政策を立案しながら実際に実施していきますが、その場面は例えば自衛隊であり、警察であり、あるいは税関、国税当局とか、結局そのいわんとするところは、公的な役割を担うところですね。やるところは唯一になるわけです。

西川 社長、警備会社で同業ということがありますよね。やはりそこで独自性というのをだしていかないと、なかなか競争というのはお互いにできない部分ってあると思うんですけど。その辺というのはこちらのALSOKさんだと、どういうことか。一般的には長島さんが

最初、「セコムしてますか？」というので出たので、警備会社というところと一般的にセコムさんと思われると思うのですが。

青山 企業の場合、何が違うかというところ、差別化とよくいいますが、そこが例えば私どもでいうと、現金輸送、あるいは銀行関係のお仕事であり、ずっと前から従事させていただいています。あるいは団体でのイベントごととか会議を開催する時にそれを守らせていただくとか、そういう分野では私どもも得意としています。また私どもの業界では機械警備と呼んでいる、センサーを設置し、侵入を感知するとガードマンがかけつける、とこういうサービスがありますが、これについては他社さんと同程度のレベルです。結局何が優位かとなると、警備品質とは、速いか、正確か、より効率的なやり方ということとで差別化していかなくてはならない、と思うんですよ。その中で、役所の時は考えたことはなかったんですけど、やはりお客様との関係とか。実は創業者が『『ありがとうの心』の経営』という本を書いています。創業者はもともと警察官僚だったんですが東京オリンピックの際に事務局次長をやっていたので、どこどこ会場で何をやるのか、そういうことの最高責任者だったんです。事務局長さんが安川第五郎さんで、セコムさんに発注されたわけですよ。「あ、これはおもしろい仕事だな」と思った創業者は警察を辞めたらお客様の安全・安心を守るという意味では警察と同じ警備を自分の次の仕事にしようかと。「武士の商法」ではないですけども、それで出来たのがうちの会社です。セコムさんは飯

田亮さんが創業されましたがエンタープレナーといいますが、企業家としてずっと新しいことやられている。うちの創業者の場合はむしろそのスタート段階からそういう意味でも違うやり方でやっている。それが私たちのひとつのバックボーンになっている「ありがとうの心」と「武士の精神」です。ここがうちの特徴ある文化だと。ですから社員教育はかなり厳しくやっています。

西川 丁度その言葉が出てきたので質問いたしますが、ALSOKでは「ありがとう運動」という活動を行っているようですが具体的にはどのような活動なのでしょう？

青山 社員より毎月、会費という形で寄付を募りまして、毎年様々なところに寄贈するわけです。例えば福祉車両であったり、様々な福祉団体や災害支援であったり。会社の名前だけで利益の中から一定金額を寄付するのではなく、社員自ら寄付するという精神で始まった活動なんです。会社ももちろんやりますけれども、役員も含めた社員から集めたお金をこういう形で役立ててもらいましょう、という形でやっております。

西川 ALSOKと言う会社の特徴というのはどの様な物なのでしょう？

青山 昭和40年に会社が創立されましたが、その少し前の昭和30年代という高度成長、その中で様々な安保をどうするかがありましたよね、創業者が良く言っていた事は「日本人として、きちっと強く、しかしあたたかくなければいけない。」であり、それが「武士の精神」だと思うんです。そこから「武士の精神」を研修時からずっと叩き込まれるわけです。それこ

そ会社に入りますと、千葉にある研修所で朝の6時から教練をやりまして、もちろん私もやりました。警備のいろんな私どもの型がありまして、それを教えこんでというやり方ですね。私どもはどちらかという「ありがとうございます」という心と「武士の精神」とをより強く出していると思います。

西川



私どもの仕事もまず「おじぎ」です。「ありがとう」と同じでお願いしますという所から始まって、最後まで「おじぎ」をしておしまいで。

青山

同じように警備は最初、「気を付け」、「敬礼」から始まります。警察でも同じですけども。それを導入してやっています。

西川

あとは日本人の心、いい意味での特性と言うかバランス感覚というんですかね、体のバランスをとって踊るというのはとても大事な事で、みんな他人ですからね、他人の中で暮らすわけですから、うまくこう自分が主張するんじゃなくて、回りをみながら生活していくこれも一種のバランス感覚だと思うんです。

青山

実は、警備という仕事はお客さまから「こういう場合はこういう風にやってください」と契約書を交わすんです。ところが、「いざ」ということが起きれば、現場の人間に判断を任せます。異常な事態が発生すると、そちらにかかりきりになっちゃう。そうじゃない場合だったらやはり、ここはこの範囲内で、となります。例えば倒れている人を見てこれはうちの契約外

です、なんてことは言えません。そういう意味からすると、本当に社会の中での「ここが範囲だよ」というのではなくて、本当に必要だったら変な意味じゃなく、いい意味ででしゃばるということですね。

西川

いつかテレビで「がちりマンデー！！」で、訓練の様子をね、新入社員の方のすごい厳しい訓練の様子を、1週間でしたか期間をおいたら、全然別人になるというのをやっていたのですが、あれは現場で警備をする方だけではなく、デスクワークなさるかたも全員うけられるんですか。

青山

そうです。社員になったら全員。わたしもやりました。やはり最初はとまどいますね。

西川

ALSOK 護身術という物が御社にはあるようですが、その護身術というは何か特殊な物なのでしょうか？

青山

警備業務で必要な技術取得のためのALSOKオリジナルの護身術です。例えば不審者に襲われたらどう自分を、ご契約先を守るかと、そういうことを教えるわけですね。ですから私どもはグループ会社含めて、年に2回柔道や剣道とALSOK護身術の大会を綾瀬にある東京武道館という所でやるんですよ。

西川

レスリングの吉田、伊調両選手も所属してますよね。

青山

会社としての社技には、柔道と剣道、ALSOK護身術があります。レスリングをはじめとするスポーツ活動も、社員の団結心向上のために支援しています。日体大や山梨学院大の学生さんからの採用に始まり、それで大きくして、最初



は男子レスリングから、そして花開いたのが女子レスリングです。やはりレスリングの大会なんかの時にも

私ども社員総出とまではいかなくとも、土日の試合は結構な人数の応援団でいきます。

西川 今後の会社、ご自身の目指す所をお聞かせください。

青山 警備は時代とともに大分変わってきています。例えば現金を運ぶというのも単なる運ぶではなくて、今はもう少し進化した形で行っています。昔は銀行さんから運んでくれと言われて行っていました。今は、銀行さんの業務が徐々にシフトされている。そういう意味ではより進んだ警備のやり方、というのがこれからは必要になってきます。既にやっていますけれども、お客様の安全・安心をもっと幅広く、健康から始まって色々な形でお一人お一人の方に密着し、生まれた時から、亡くなる時まで、どういう形で私どもがサポートできるか。もちろん公共的なサービスがある中でどうやって当社が関

与するか。今は高齢化社会になっていますが、個人向けの新しいマーケットを作らなければいけません。新たなニーズは目の前に沢山あるはずですから。公共向けの話でいいますと、今予算というか政府債務の増加、財政危機ですけど、その中でどうやって国のインフラを、うまく私どもがサポートできるか。例えば老朽化したインフラを監視して、これはちょっとまずいかなと思ったら、連携をとってそこをないようにするにはどの様にお手伝いできるか、その手ニーズというのは結構多いと思います。あとは海外で展開される日本の企業の方々のご活躍を、どれくらいサポートできるか。ひいてはその後、その国の方々にも警備でお手伝いできることがいっぱいあるのかなど。それをどうするか議論をしていますね。

西川 ありがとうございます。

青山幸恭氏 プロフィール

昭和 27 年 9 月 28 日生まれ
昭和 50 年 東京大学法学部卒業
同年 大蔵省入省(現財務省)、和歌山県警本部長、横浜税関長、関税局長を経て平成 20 年退官
同年 総合警備保障株式会社入社
常務執行役員就任

平成 21 年代表取締役専務執行役員就任
平成 22 年代表取締役副社長就任
平成 23 年最高執行責任者就任
平成 24 年代表取締役社長就任

第46回 講演会

「楽しい文楽入門」とは



講師 豊竹咲大夫 氏

日時 平成25年1月28日(月)

15時00分～16時30分

場所 東京信用金庫本店ホール

ただ今ご紹介にあずかりました、文楽の豊竹咲大夫でございます。本日はお招きいただきましてまことにありがとうございます。一昨日まで大阪公演がございまして、今度また2月9日から東京公演がございまして、その間におじゃまさせていただいたわけでございます、文楽と申しますと日本舞踊とは切っても切れない関係があることは皆様ご存知の通りでございます。その辺のことはまたゆっくりお話させていただくことにしまして、西川流の御宗家とは昨年3月にオランダへ財団の舞踊公演として扇藏先生にお誘いいただきまして、花競四季寿（はなくらべしきのことぶき）のうちの「関寺小町」を扇藏先生と一緒に舞台を勤めさせていただきました。これは踊りにも関係ありますので、補足させていただきますと、四季寿と申しますのでまず、春は「万才」、夏は「海女」海の女ですね、そして秋が「関寺小町」、冬が「鷺娘」というふうになっておりまして、これを文楽の方では舞踊劇とか舞踊とか申します。踊りのもの、舞踊的なものを「景事物」と呼んでおります。日本舞踊と文楽に関係があることは今も申しましたけれども、みなさまそんなこと知ってるわ、とおっしゃる方もあるかもわかりませんが、ちょっとあらためて話をさせてい

ただきますと、日本の古典芸能の場合には一番上のお兄さんが、「能・狂言」と言われております。そして次男が「文楽」、三男が「歌舞伎」、そしてそれに「日本舞踊の関連するもの」また「落語」そのようなものが繋がってくるのでございまして、決してどれがいいとか悪いとかではございまして、一つの演目に対してそのような流れができております。例えば「隅田川」でございまして、お能の「隅田川」文楽には「双子隅田川」というのがございまして、歌舞伎では舞踊劇として「隅田川物」とうのがいろいろあります。そしてそれが変形してきますと「法界坊」の隅田川物「隅田川続佛」ということになってきて「双面」とういことになってきます。文楽の場合は「時代物」と申しまして、武家社会、公家社会、戦記もの、そのようなものを「時代物」と呼んでおります。一方「世話物」と申しまして、町人社会、しせいの人物、一連の近松心中作品なんかは世話物の代表でございます。では「時代物」と「世話物」はどうするのかというと、ひとつその「笑い」というのをテーマにいたしますと、武家社会、戦記ものなどを扱っておりますので、時代物は大変オーバーに笑います。一方「世話物」の笑いは皆様方がお笑いになるような、「落語」「喜劇」いろ

んなものをご覧になって、お笑いになるような普段の笑い。「時代物」と「世話物」の違いといいますか分野の違いはお分かり願ったかと思えますけれども。文楽はなにぶん、「大夫」私は大夫でございませぬ。語り手でございませぬ。これは野球にたとえますと、ピッチャーでございませぬ。そしてお三味線はキャッチャーでございませぬ。そしてお人形の方が内野手であり、外野手であるわけです。そして一つのチームをこしらえる、一つの演劇をこしらえて皆様がたに鑑賞していただく、ということで文楽は進んでいくわけでございます。

文楽の話はわきへおかせていただきまして、昨年扇藏先生と海外公演に伺いまして、私もオランダという所は初めて伺いまして、いろんな経験をさせていただきました。三会場ともおかげさまで4公演だったと思えますけれども、ご好評いただきました。その言葉がわからないわけですよ、あちらの方は。あちらの方は言葉がわからないのに、なぜ日本舞踊なり義太夫の語り等においてご理解いただけるか。それはまあ、いいふるされた言葉でございませぬけれども、芸術に国境はないと申しますか、ハート、心で訴えればどこの国の方でもわかっていただけるというふうに、日本舞踊の公演に参加させていただいても、それは如実に感じたわけでございます。

私も手前味噌で恐縮なんです、子供

の時分には踊りをやっております、「松の緑」と「松の翁」くらいは踊ったことがあるんです。それで後年、扇藏先生の大崇拜でもいらっしゃる藤間の六世藤間勘十郎氏より私も大変可愛がっていただきまして、ある天地会で「紅葉狩り」の「山神」を教えていただきました。六世勘十郎直伝で教えてもっておりますので、ある意味扇藏先生と兄弟弟子の所もあるわけでございますけれども。

皆様方も日本の芸能を愛していただいで、必ず、歌舞伎、文楽はぜひ1年にいっぺんくらいは、ご覧になってくださいませ。それでまあ、文楽からいいますと、歌舞伎、落語、講釈、日本舞踊、これはもう必ず見なければいけません。また、歌舞伎の方からいえば、文楽、落語、講釈、踊り、そういうことも必需品だと思います。そういうふうに古典芸能を同じように勉強させていただく私たちとしたしましては、是非とも日本古来の古典芸能は何とか頑張って、将来に伝えていきたいと存じておりますので、日本舞踊、文楽、歌舞伎あわせて、皆様に相乗効果で応援していただく事をお願いいたします。まことにすべった所もございませぬけれども、その点はお許しいただきまして、ご理解の程お願いいたします。今後ともよろしくどうぞお願いいたします。どうもありがとうございました。

豊竹咲大夫氏プロフィール

【芸歴】 昭和 28 年 豊竹山城少掾に入門
竹本綱子大夫と名のる
同年 初舞台
昭和 41 年 豊竹咲大夫と改名
平成 21 年 切場語りになる
【受賞】 昭和 59 年 第一回咲くやこの花賞
平成 11 年 芸術選奨文部大臣賞
平成 16 年 平成 15 年度大阪舞台芸術賞

平成 21 年 平成 20 年度(第 65 回)
日本芸術院賞
平成 23 年 第 41 回エクソンモービル
音楽賞
平成 24 年 第 53 回毎日芸術賞

【著書】 「咲大夫まかりとおる」、他

松風物の系譜④

東京大学文学部 教授

古井戸 秀 夫

松風物には、二人そろって汐を汲む、「二人汐汲」の所作事もありました。その早い例が宝暦十二年（一七六二）正月市村座『残雪霖曾我（このんのゆき-かついろそが）』の長唄『浦千鳥見女（みるめの）汐汲』です。男女二人の「汐汲」で、男は吉備津（きびつ）の大藤内（おおとうない）、女はその妹で汐汲藤太夫の娘千鳥でした。曾我狂言に組み込まれていたので、汐を汲む浜は鎌倉の由比ヶ浜になっています。歌詞の中にも、「沖の鷗や磯千鳥、あれあれ向うは安房上総（中略）由比が浜辺に寄る波」とありました。能『藤戸』の話も絡んでいて、兄と妹は親の敵の佐々木三郎盛綱に会うために、今様の狂言師に身をやつして館に入り込み、今様の狂言の「お染久松」を演じました。「今様」は「現代版」、その狂言は歌舞伎のことです。「汐汲」も、その所作事として踊られたものだったのでしょう。

明和七年（一七七〇）正月市村座の『富士雪会稽曾我』の常磐津浄るり『藻塩艸須磨朧夜』は、松風と村風の姉妹の「二人汐汲」でした。松風は、立役で座頭の初代尾上菊五郎、村雨には同じく立役で座元の九代目羽左衛門が扮しました。菊五郎は、はじめは女形でしたが体が大きくなりすぎて、立役に転向して成功しました。立役の二人が並んで立ったその姿は壮観だったのでしょう、役者絵の泰斗一筆斎文調が二枚続きの錦絵に仕立てています。妹の村雨は振袖姿、姉の松風は留袖のもろ肌を脱いでいます。脱いだ袖が振袖のように見えるのが面白かったのでしょうか。二人はともに裾を引き、腰に

蓑を付け、天秤棒で汐汲み桶を担いでいます。鷗鬘（かもめづと）の髪型も一対ですが、生え際が違いました。姉の松風は帽子で生え際を隠し、妹の村雨は晒しています。村雨の羽左衛門は、自分の生え際を活かした、独特の鬘を使う人でもありました。豪華な紫の帽子と、鮮やかな黒髪、その対照を見事に描き上げた役者絵の逸品でした。

もうひとつ、立役が松風に扮した作品を紹介することにしましょう。明和八年十一月中村座の『倭花小野五文字（くにはな-おののいつもじ）』の常磐津浄るり『懐花郭駟閨（ゆかしいか-みやこのなれどこ）』という作品です。松風に扮したのは、「関の扉」の関兵衛、「鞍馬獅子」の喜三太、「戻駕」の浪花の次郎作、など数多くの名作を世に残した、実悪の名優中村仲蔵でした。顔見世の舞踊を得意にした人で、この「松風」もそのひとつです。仲蔵の松風は、須磨の大領という大名の姫君でした。父の大領は、行平の命を狙う悪人です。松風もその一味で、懐中の密書を見咎められて、それを隠して踊るところから「懐花」というタイトルが付けられています。恋文の文章の「末の約束申し候べく候、かしく、さま参る、身より、といな」で踊るところなど、なかなか面白い工夫の所作事になっていました。都人行平の無聊を慰めるため、姉妹の姫君が赤前垂れ姿の祇園の仲居になって浜辺で行平の髪を梳いたり、「引けや引け引け、汐汲み車・・・」という浜歌を聞いて盃を交わしたりする、おおらかな内容が顔見世の舞踊の特色になります。

前半、上の巻の最期は、行平と村雨が曲者の手から逃れて、相合傘で立ち去るところになります。傘を差して歌う「傘を差すなら須磨の山・・・」は、能狂言の『末広かり』の囃子物のパロディでした。後半の下の巻は、松風を口説こうとする敵役との、花やかな所作ダテで幕になりました。仲蔵の松風は、妹の恋人に邪な恋を仕掛け、村雨を打擲しますが、ついには殺されてその正体を現します。その正体は、三韓王の娘の三花公女というものでした。このような荒唐無稽な設定が江戸の顔見世のもうひとつの特色でした。行平が鴛鴦の血を飲まされて唾になり、鸚鵡の血を飲んで言葉を繰り返すなど、滑稽な場面もある長編の導入部として踊られた、常磐津の所作事でした。

もうひとつ、顔見世の舞踊の「松風」を紹介しましょう。寛政八年（一七九六）十一月市村座の『銀積松行平（ぎんせかい-まつにゆきひら）』の富本浄るりで、上の巻、下の巻、それぞれにタイトルが付けられています。上の巻は『恋すてふ鄙手枕（ひなのたまくら）』、下の巻は『徒髮恋曲者（いたずらがみ-こいはくせもの）』でした。上の巻は、須磨の浦です。帰洛を赦されて、立烏帽子に狩衣の姿に戻った行平と、腰蓑を付けて汐汲み桶を担ぐ賤の女の松風との別れを描く浄るりの所作事でした。踊りが終わると、場面は松風の母の住家に替わります。ここは、浄るりでも踊りでもなく、狂言でした。母は、悪人の名虎の妾で、松風はその娘だということです。さらに、恋する行平は母に殺されたと聞いて、松風は常軌を逸してしまうのでした。下の巻は、再び須磨の浦に戻り、松風の狂乱の所作になり

ます。この作品の作者は、並木五瓶でした。大坂から下ってきて三年目でしたので、新しいことを試みようとしたのでしょうか、それまでの江戸の顔見世にはない舞台の構成になりました。下の巻になると、山台の上の富本浄るりとともに、雛段に長唄囃子連中が居並びました。その冒頭には、能の謡掛かりの長唄で、松風の狂乱の舞を舞ったようです。富本浄るりになると、松風に惚れている須磨の此兵衛が搦み、それが済むと磯馴の松兵衛という酔っ払いが出て来て、万歳の所作を踊るのでした。作者は大坂の五瓶でも、作詞をしたのは江戸の作者の河竹文次でした。のちに、二代目瀬川如臯を襲名して、「半田稻荷」「角兵衛」「三社祭」など、江戸の風俗舞踊の名作を書き下ろすことになる作者でした。それゆえ、浄るりの詞章は江戸風のままだったのです。



〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-3-14
ツカモト堀留ビル6階

フリーダイヤル 0120-5290-58
ごふくわ いづつや

公益財団法人日本舞踊振興財団では財団立ち上げ当初より日本舞踊普及事業の中の新人育成と言う枠の中で、先行芸術である仕舞・狂言を学ぶ事により日本舞踊家が一段高い技術、精神を得られるよう「仕舞・狂言教室」を月に一度づつ開催している（仕舞教室は毎月第二水曜日1時30分より、狂言教室は毎月第二月曜日1時より、いずれも公益財団法人日本舞踊振興財団理事長西川扇藏宅、稽古場にて）。早いもので二期二年で行っている教室も仕舞は第十二期（前期）、狂言は第十一期（後期）となった。ここの所教室の生徒達が自分達主催で二年に一度杉並能楽堂を借り発表会を行っているが今年は丁度その発表会が行われた年と言う事もあり今回会報に取り上げる運びとなった。また仕舞・狂言教室を取り上げるに際して仕舞の講師・田邊哲久先生、狂言の講師・山本則俊先生にお話を伺った。

そもそも日本舞踊と仕舞・狂言とは直接的には関係が無いように思えるが、突き詰めて言えば、同じ日本の伝統舞台芸術であり扇子等小道具を持ち、衣装を纏い舞台の上で表現をするという点では同じである。その共有している部分、相違点を先生方はどのようにお感じになり教えていただいているのか。先生方は財団の教室の他にも様々な所で教室を開いていらっしゃるそうだが、この教室の特徴としては多くの日本舞踊家の方達が受講生として所属していると言う事をおっしゃった。勿論一般の方が、ホームページをご覧になって等のきっかけで入校する場合もあるが、凡そ受講生の三分の二以上の割合が日本舞踊家である事からも分かる様に通常のカルチャー形式の教室とは一線を画した教室である事は間違い

ないと思われる。では受講生に日本舞踊家が多いと言う事は具体的にどの様な特徴があるのでしょうか。両先生共に仰っていたのは受講生の覚えが早いと言う事である。仕舞には、仕舞、謡とあり、狂言も動きながら台詞を語る、と言った体を動かすという一点と口を動かすと言うもう一点があるが、特に体を動かすという点についての覚えが早いと仰っていた。それこそ日本舞踊家の面目躍如と言う事であろう。さらに仕舞の場合、実際には仕舞、謡は発表会で別に演じられるのだが仕舞を演じる時に謡を覚えているとより正しく仕舞も覚えられとの事である。その点は日本舞踊にも相通じる部分ではないであろうか。

逆に何が日本舞踊と仕舞・狂言と全く違う点といえるのであろうか。まず、日本舞踊は様々な舞台で演じられる。東京の歌舞伎座、国立劇場（ここも大劇場、小劇場とある）、区民ホール、他の都市の県民会館、市民ホール等々…あらゆる会場の舞台の大きさ（間口、奥行）は違うと思って良いであろう。一方、仕舞（能）、狂言が演じられる能楽堂の寸法はどこも同じである。本舞台が三間四方となっており、その四隅に笛柱、脇柱、シテ柱、目付柱という四本の柱が立っている。その柱が動きにおいて一種の目印になり、演者の歩幅が確定していれば決まった歩数でその指定の位置まで移動できる、と言う事になる。実際現在教室で使用している稽古場は日本舞踊用の長方形の形をしているのだが、短い一辺は実際の能舞舞台の寸法に足りず稽古の時にはそこまで進んだという体でその後の稽古を続けているとの事である。発表会を経験している受講生はその部分を体で覚えているそう

だが、初めて能楽堂で演じる方などは歩幅を確定すると言う事は難しいようで発表会前には相応の能楽堂での稽古が必要になる場合が多いそうだ。また正方形の舞台上で良く見えるように円を描くように動く事（日本舞踊は正面に客席があるので正面を意識した動きになる）、狂言に関しても動きが直線的である事（舞踊は比較的曲線的な動きが多い）等は仕舞・狂言と日本舞踊との大きな違いと言えるのではないだろうか。その様な我々の日常でも日本舞踊での稽古でも使われない動きを学ぶと言う事は一般の受講生は勿論、日本舞踊家の受講生にとっても非常に難しい事と思われる。それらの動きを月に一度の稽古で覚えるのは非常に苦労があるように見受けられる。

また、先生方に今後教室がどの様になる事を希望していらっしゃるか、という質問をした所両先生共に折角の月に一度のお稽古を無駄にしない為にも、可能であれば年に一度発表会を開催したら如何なものか、と仰っていらした。日本舞踊にも言える事であるが具体的な目標が定まっているとより稽古に熱が入ると言う事であろう。

財団としても今後一人でも多くの舞踊家がこれらの教室を受講し、先行芸術のエッセンスを取り入れ舞踊家として一段高い所に登る事を期待し、仕舞・狂言教室の更なる発展を希望している。



役員会等の動き

理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議での結果
平成 25 年 3 月 25 日	第 1 号議案 平成 25 年度事業計画 (案) について	満場一致で可決
平成 25 年 5 月 16 日	第 2 号議案 平成 25 年度収支予算 (案) について	満場一致で可決
	第 1 号議案 平成 24 年度事業報告 (案) について	満場一致で可決
	第 2 号議案 平成 24 年度決算報告 (案) について	満場一致で可決

評議員会

開催年月日	議 事 事 項	会議での結果
平成 25 年 5 月 31 日	第 1 号議案 平成 24 年度事業報告 (案) について	満場一致で可決
	第 2 号議案 平成 24 年度決算報告 (案) について	満場一致で可決
	第 3 号議案 理事の選任について	満場一致で可決
	その他 平成 25 年度事業計画と平成 25 年度収支予算の説明	満場一致で可決

公益財団法人日本舞踊振興財団 役員等名簿

(50 音順・敬称略)

◆理事長

西川 扇藏

◆業務執行理事

大野 輝康

◆理 事

青山 幸恭

太田 博

大野 輝康

木島 一郎

今野 由梨

西川 扇藏

西川 均

(西川 箕乃助)

登 誠 一 郎

花柳 寛

(花柳 善輔)

藤間 高子

(藤間 勘根)

三隅 治雄

水野 豊

◆監 事

小山敬次郎

半澤 進

◆評議員

飯田 侃

市川 和雄

(市川 團藏)

内堀 祐子

(西川 祐子)

越智 久男

景山 正隆

近藤 瑞男

龍居竹之介

田中 英機

田村 直子

(西川 扇生)

鳥越 文蔵

中村 作二

波多 一索

福田 博

藤田 洋

藤田 康幸

古井戸秀夫

丸茂美恵子

(丸茂 祐佳)

特別会員 ご芳名

日本舞踊振興財団では、特別賛助会員制度を設け、下記の方々にご支援をいただいております。是非ご参加をお願い申し上げます。

◎会費 1口 10万円(1年間)
 ◎特典 会報のご送付
 会報・公演プログラム等にご芳名掲載
 財団主催イベントにご招待

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 飯田 侃 | 東京信用金庫(理事長 半澤 進) |
| 飯田 君子 | 東信企業(株)(代表取締役 金澤克夫) |
| 飯田 信子(飯田不動産 代表) | (株) 中 村 |
| 飯田 全子(和光不動産(株) 代表取締役) | 西川 井 扇(日本舞踊家) |
| 市田(株)井筒工藝ディビジョン | 西川 扇左美(日本舞踊家) |
| 岩井商事(株)(代表取締役 齊藤日出興) | 西川 扇太郎(日本舞踊家) |
| (有)かつら大阪屋(代表取締役 長坂誠一郎) | 西川 扇竜香(日本舞踊家) |
| 金井大道具株式会社(代表取締役社長 金井勇一郎) | (株) 西 菱(代表取締役 西川園子) |
| 歌舞伎座舞台(株) | NPO法人日本伝統芸能振興会(会長 石田寛人) |
| (有)ギャラリー竹柳堂(代表取締役 藤澤 繁) | NPO法人日本文化研究所(理事長 木村知躬) |
| 向陽開発(株)(代表取締役 鈴木甫沙子) | (株) 八 芳 園(代表取締役社長 長谷 取) |
| 松竹衣裳(株)(代表取締役社長 酒井誠一) | (株)ビデオフォトサイトウ(代表取締役 斉藤政雄) |
| セガサミーホールディングス(株)(代表取締役会長兼社長 里見 治) | 報知新聞社(代表取締役社長 早川 正) |
| 関根 愛子 | (株)ホテルオークラ東京(代表取締役社長総支配人 清原當博) |
| 大東建設(株)(代表取締役 齋藤満宣) | 藪本 俊 一(株)古美術藪本 代表取締役) |
| (株)瀧川峰晴堂(代表取締役 瀧川明行) | 山本化学工業(株)(代表取締役 山本富造) |
| 竹内小道具(演劇舞踊小道具店) | (株)吉岡衣裳(代表取締役 清水喜重郎) |

◆特別会員に参加ご希望の方は財団事務局までご連絡下さい。申し込み書類をご希望のご住所宛にお送りさせていただきます。 財団事務局 TEL 03 - 3354 - 5496

NBF 活動報告・行事予定

NBF活動報告

◆ 新春につどう

日 時：平成 25 年 1 月 11 日(金) 14 時開演
会 場：経団連会館ダイアモンド
ルーム

内 容：祝舞、賀詞交歓、活動経過報告

◆ 第 46 回講演会

日 時：平成 25 年 1 月 28 日(月) 15 時開演
会 場：東京信用金庫本店 8 階ホール
演 題：「楽しい文楽入門」
講 師：豊竹咲大夫

◆ 幼稚園おどり教室

日 時：平成 25 年 2 月 18 日(月)
会 場：東洋英和幼稚園
内 容：幼稚園児に自然な雰囲気から「日本舞踊」に親しむように企画した啓蒙活動

◆ 仕舞教室・狂言教室合同発表会

日 時：平成 25 年 4 月 6 日(土)
会 場：杉並能楽堂
内 容：毎月行われている仕舞教室・狂言教室の稽古の成果を発表



◆ 未来(あす)に羽ばたく新進芸術家による日本舞踊公演

日 時：平成 25 年 5 月 16 日(水)
開催地：栃木県宇都宮市
会 場：宇都宮市文化会館小ホール
演 目：長唄「外記猿」、長唄「操三番叟」等
内 容：我が国が世界に誇る伝統芸術である日本舞踊の更なる普及、発展を目的として、文化庁の新進芸術家研修制度を体験したような意欲的な若手中心の舞踊家による日本舞踊公演
日本舞踊への理解度が深まるよう観客に対してのワークショップ

公益財団法人日本舞踊振興財団 「NBF」 No.44

発 行 公益財団法人日本舞踊振興財団
〒162-0065 東京都新宿区住吉町
10-8 片桐ビル 301

印 刷 株式会社 藤昭印刷興業

発行日 平成 25 年 7 月

◆ KAKEHASHIプロジェクト米国人大学生訪問団向け 日本文化体験「日本舞踊」

日 時：平成 25 年 5 月 19 日(日)、5 月 22 日(水)、
5 月 29 日(水)

会 場：西川扇蔵稽古場、国際交流基金情報センター ホール「さくら」

主 催：国際交流基金

内 容：北米地区との青少年に対し我が国に対する潜在的な関心を増進させ、訪日外国人の増加を図るとともに日本的な価値やクールジャパンといった我が国の強みや魅力等の日本ブランドへの国際理解を増進させる事を目的とする。招聘事業では 2,300 名の米国青少年がホームステイ、日本文化体験プログラム等で来日し、内 200 名に対して日本舞踊のレクチャー、体験を行った。

NBF行事予定

◆ 第 47 回講演会

日 時：平成 25 年 8 月 2 日(金) 15 時～16 時 30 分

会 場：東京信用金庫本店ホール

講 師：山口崇

演 題：「民話と古典芸能」

◆ 新宿区「こども文化体験プログラム」

—日本舞踊—

日 時：平成 25 年 8 月 5 日(月)～7 日(水)

会 場：新宿区四谷地域センター

◆ 文化庁—文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

—新宿区日本舞踊こども教室—

日 時：平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月

会 場：新宿区内公共施設

◆ 東洋英和女学院中等部—日本舞踊公演

日 時：平成 25 年 12 月 9 日(金) 10 時～11 時 30 分

会 場：東洋英和女学院

◆ 賀詞交換会「新春につどう」

日 時：平成 26 年 1 月 14 日(火) 14 時～15 時 30 分

会 場：経団連会館

◆ 第 48 回講演会

日 時：平成 26 年 1 月 27 日(月) 15 時～16 時 30 分

会 場：東京信用金庫本店ホール

◆ 幼稚園おどり教室

日 時：平成 26 年 2 月 17 日(月)

会 場：東洋英和幼稚園

編集後記

- 会報第 45 号(次号)は財団が青少年に対する普及活動の一環として長い間行っている幼稚園おどり教室、学校公演、日本舞踊こども教室等を取り上げる予定です。
- 今年も猛暑との予報が出ております。読者の皆様にはお体ご自愛の上お過ごしください。